

正しく学んで ドローン^{そうじゅう}操縦

自在に空を飛ぶ鳥になったかのような目線で、自然風景の空撮を楽しむ「ドローン」。近年始める人も増えてきた。2018年から新たな趣味として楽しんでいる記者が、魅力や始め方をお伝えしたい。

スクール活用

ドローンを始めるにはどうした
らいいか。^{げんざい}現在日本には自動車の
ような^{めんきょせいど}免許制度がなく、機体を買
って許可された場所であれば原則^{げんそく}
^{だれ}誰でも飛ばせる。操縦方法や飛行
のルールを学ぶには民間のスクー
ルを活用するのも手だ。記者も18
年にスクールに通い、マンツーマ
ン指導^{しどう}で正しい知識^{ちしき}や技術^{ぎじゆつ}を身に
つけられた。

5月中旬に東京都の「ドローン
スクールお台場」を訪ねると、受
講生が指導を受けながら離着陸や

旋回などの操縦を確認していた。この日、3日間の講座を修了した千葉県の高校2年生(17)は「関係法規の知識も学べ、操縦もインストラクターが手取り足取り教えてくれた」と満足げ。同スクールの楠木芳彦さん(45)は「慣れればスムーズに操縦できるようになる」と話した。

こう が しつ
高画質の動画も

操縦に慣れたら、オススメしたい撮影スポットは海岸沿いや山岳地域だ。美しい自然風景がとれる

上、電線や建物が近くになく、事故が起きにくいからだ。

撮影した写真や動画は機体に差したマイクロSDカードに保存されることが多い。着陸後にカードを抜き取ってパソコンで編集し、SNSに投稿して空からの景色を「お裾分け」するのがたまらなく楽しい。

ほうりつ 法律守る必要

知って
おこう

ドローンの飛行は
様々な法律を守る必要
がある。

航空法で、ドローンの飛行は、日中、操縦者から機体が見える範囲内と定められている。夜間などの飛行は原則として認められていない。

場所も、空港周辺や人口密集地
は厳しく規制されている。皇居、
首相官邸、原子力事業所なども上
空飛行は原則禁止だ。

海や山、川など自然の中で飛ばすことを直接規制する法律はないが、道路交通法などが関わってくるケースがある。公園も条例で飛行を禁止している場合があるため確認しよう。



(2021年6月13日 読売新聞朝刊より)

- 1** 海岸沿いや山岳地域が撮影スポットとして「オススメ」なのはなぜですか。記事に書かれている理由を、後ろに「～から」が続くように2つぬきだしましょう。

から

から

- 2** 「お裾分け」とありますが、具体的には何をどうすることですか。
説明した次の文章に入る言葉を5字でぬきだしましょう。

を SNS に投稿すること。

- 3** 小学生4人が、記事について話しています。記事の内容を正しく理解していないのはだれですか。すべて答えましょう。

A 君：スクールで講習を受けて免許さえ取れば、小学生でも空撮ができるんだね。

Bさん：でも、飛ばしてはいけない場所がいくつもあるのね。

Cさん：空港の近くや皇居の上は分かるけれど、公園も禁止のところがあるのはなぜかしら。

D 君：ほかの人や、遊んでいるボールにぶつかったりしたら危ないからじゃないかなあ。

E 君 ^{ぼく}：僕がもしドローンを飛ばせるようになったら、空から花火大会の様子を撮影したいな。